

6-1 九州地方とその周辺の最近の地震活動 (1991年11月～1992年4月)

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District
(November, 1991 - April, 1992)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1991年11月から1992年4月までの震央分布を第1図に示す。また、第2図、第3図にはそれぞれ1991年11月～1992年1月、1992年2月～4月の震央分布を示す。1992年3月以降、地震津波監視システム (Earthquake and Tsunami Observation System, ETOS) の導入に伴い、震源分布図の表示範囲と震源の掲載基準に変更がある。範囲については図のとおりである。表示基準は北緯31度以北については震源時の誤差1秒以下かつ緯経度の誤差5分以下、それ以外の地域においては震源時の誤差1.5秒以下かつ緯経度の誤差7.5分以下の震源である。

この期間、図中で発生した有感地震は1991年11月7回、12月1回、1992年1月4回、2月2回、3月2回、4月8回観測された。マグニチュード4以上の地震は、10回 (Mmax: 5.7, 1月26日, トカラ列島近海) 発生した。

種子島東方沖では1991年11月1日13時25分の地震を皮切りに、小さい地震が群発した。1月末までに63個の震源 (Mmax: 4.1, 1月20日) が決定された。

1992年1月30日の鹿児島県西方沖の地震 (M: 5.2) の地震で九州の西側の広い範囲で有感となった。

種子島南東沖では、4月13日にM: 5.5, 23日にM: 5.6の地震が発生した。この付近では1989年1月にマグニチュード5クラスの地震が1カ月間に7回発生している。

1. 島原半島・橘湾の地震・火山活動

1991年11月～1992年4月までと1990年6月～1992年4月までの島原半島・橘湾の震央分布図を第4図に、1990年1月～1992年4月までの雲仙岳測候所の日別地震回数、有感地震回数、微動回数を第5図に示す。橘湾を震源とする地震活動は1991年7月より低調である。雲仙岳測候所では、4月1日21時08分 (M: 4.2, 震度Ⅱ), 21時14分 (震度Ⅰ) に有感地震を観測した。雲仙岳測候所では有感となったのは、1991年7月4日以来であり、マグニチュード4を越えたのは1991年6月27日の地震 (M: 4.4, 震度Ⅳ) 以来である。雲仙・普賢岳の地震活動は、山体内の微小地震は11月に入り回数が増加し、消長を繰り返しながらも高いレベルを維持し、3月23日に日回数の最大586回を観測したほか、12月1日にも540回を観測している。噴火活動は山頂からの溶岩流出と火砕流が続いており火山性微動回数も1日50回前後の発生を続けている。

2. 鹿児島県西方沖 (甌島付近) の地震

1992年1月30日10時51分、鹿児島県西方沖で発生した地震 (M: 5.2) ^{*1)}により鹿児島・枕崎・牛深で震度Ⅲを観測したほか、九州の広い範囲で有感となった。福岡管区気象台は、11時01分、

「17区ツナミナシ」を発表した。震度分布を第6図に示す。また、同日24時までには3個の余震が観測された。最大余震は10時54分の地震（M：3.6）で、牛深で震度Ⅰを観測した。

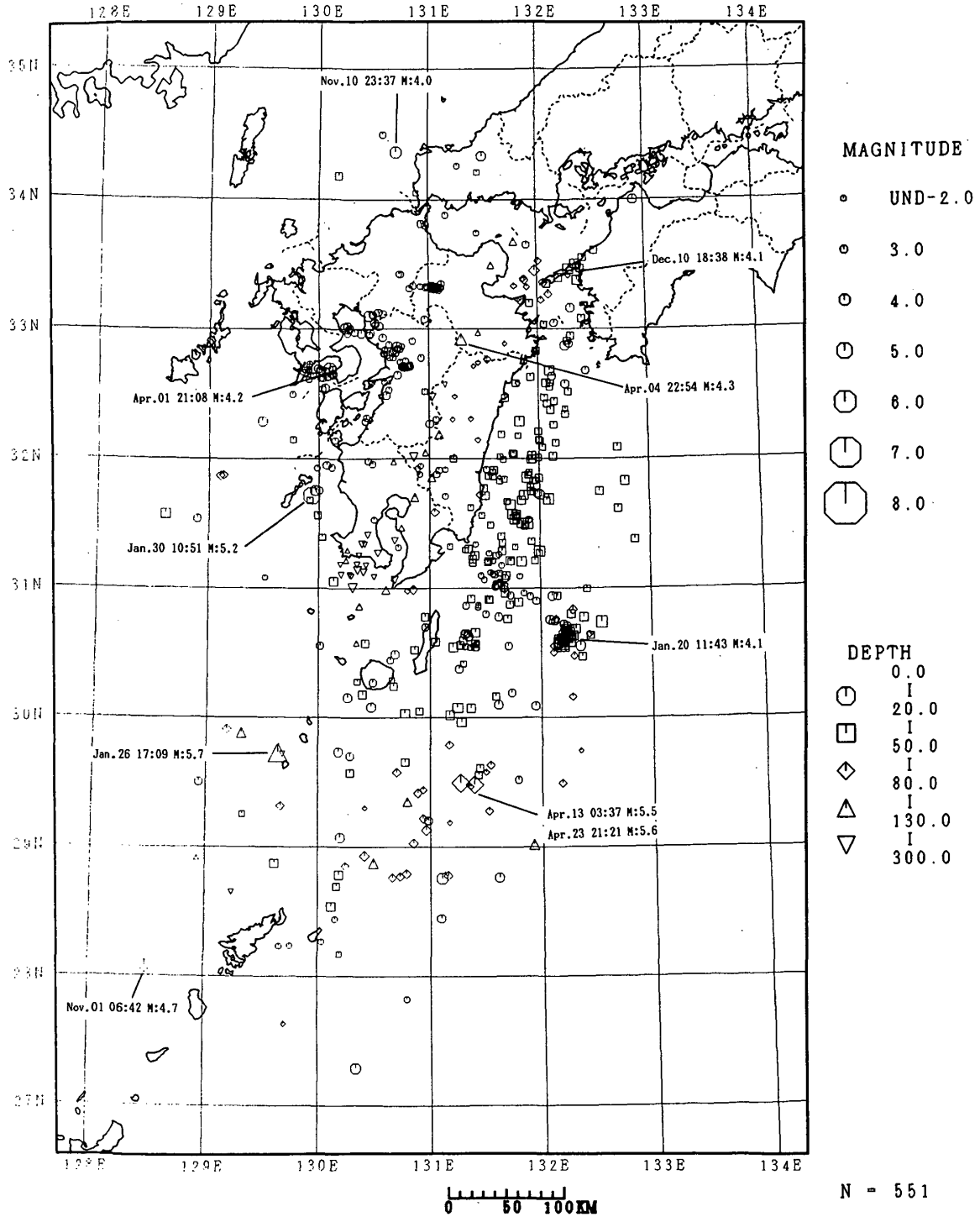
鹿児島県西方沖およびその周辺に発生した地震の震央分布（1984.3.14～1992.1.31）を第7図に示す。破線内は、1984年8月15日の地震（M：5.3，最大震度Ⅳ鹿児島）の余震域で、ときどき地震活動が見られる。今回の地震はこれまでのものとは異なり、より甕島に近いところで発生している。

*1) この地震の再計算結果（最終値）は震源時1992年1月30日10時51分29.7秒，31°43.5'N，129°55.3'E，深さ17.1km，M4.9

管内地震活動図

(1991/11/1 0:0-->1992/4/30 24:0)

福岡管内気象台



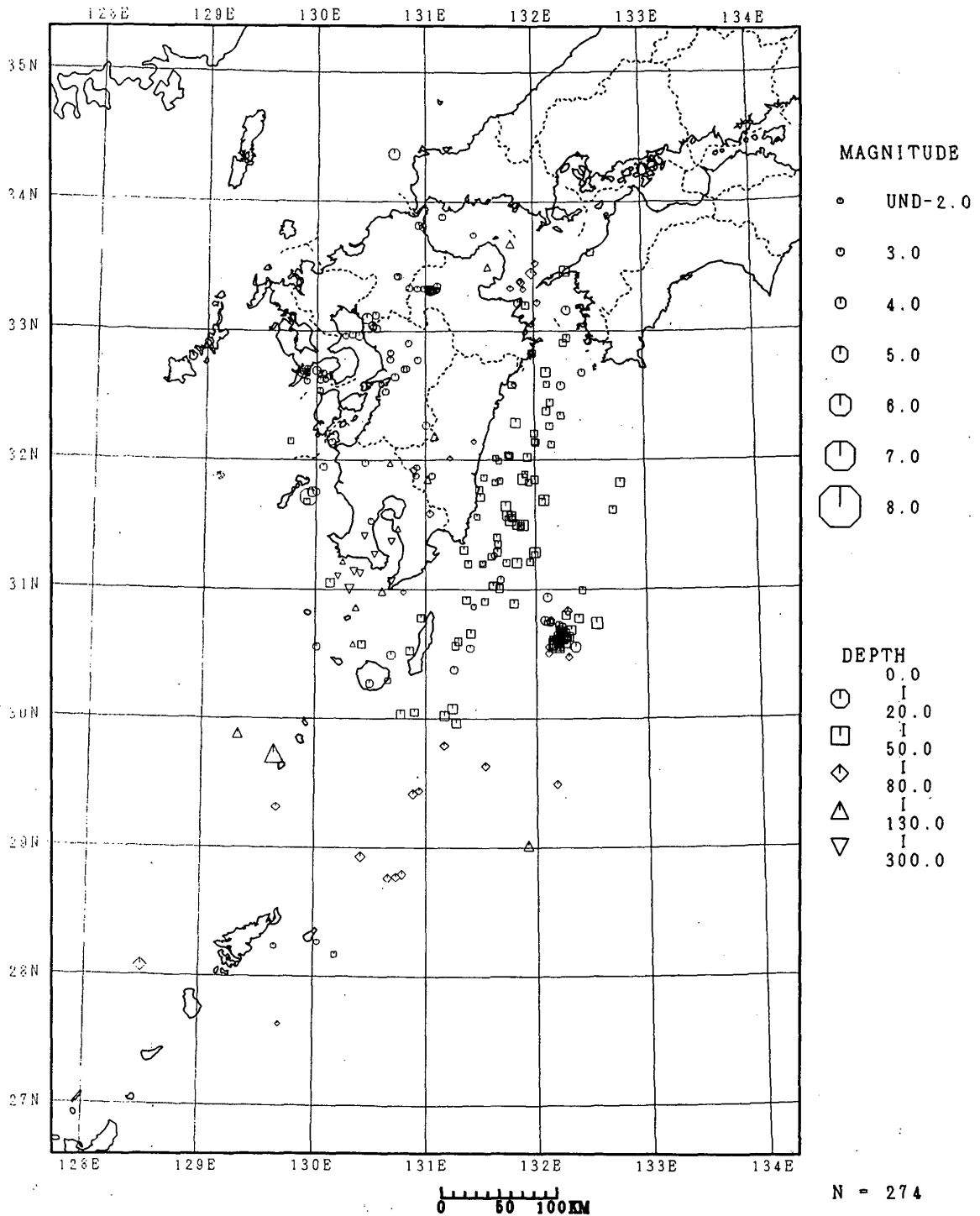
第1図 震央分布図 (1991年11月~1992年4月)

Fig. 1 Epicentral distribution (November, 1991 – April, 1992)

管内地震活動図

(1991/11/1 0:0-->1992/1/31 24:0)

福岡管内気象台



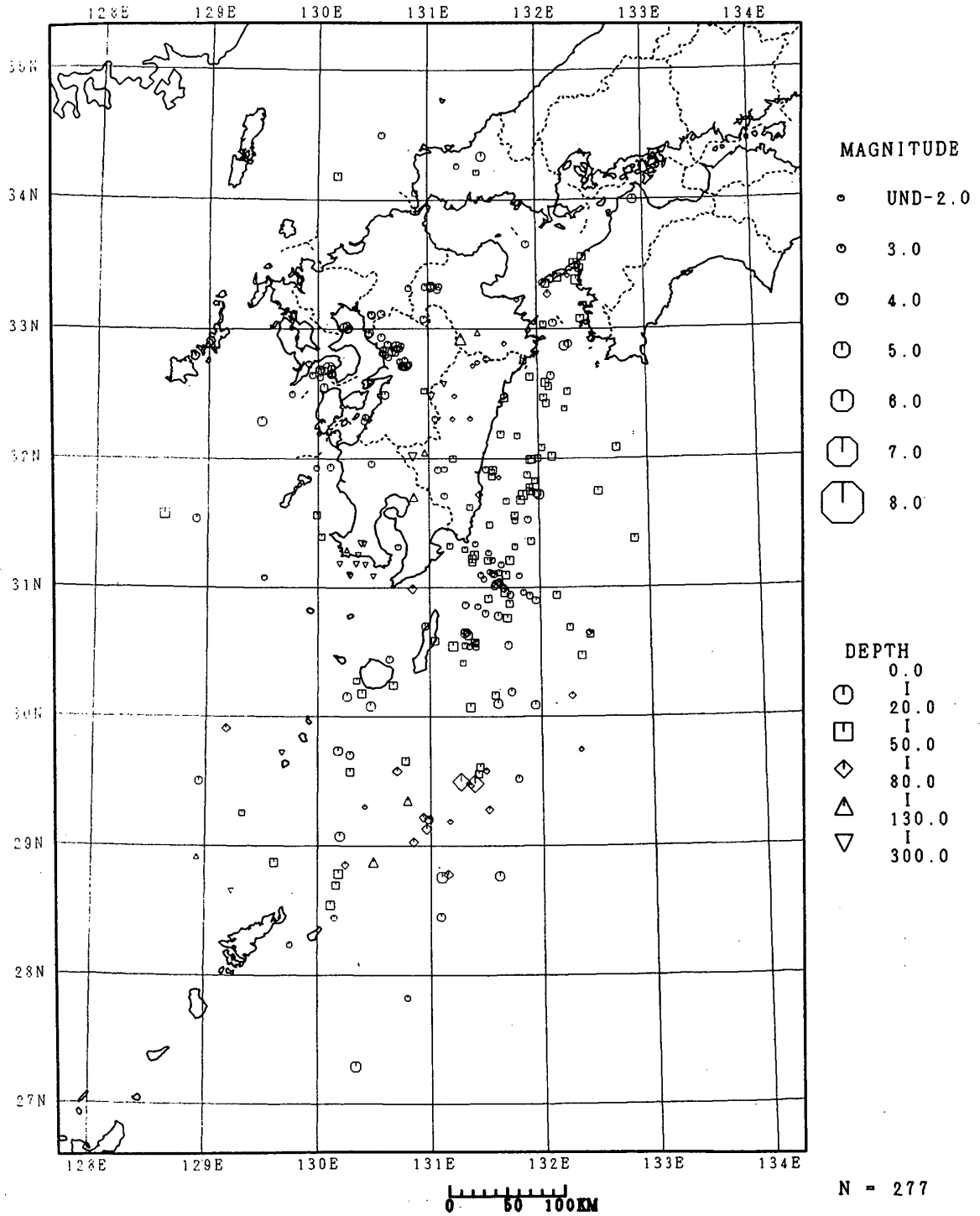
第2図 震央分布図 (1991年11月~1992年1月)

Fig. 2 Epicentral distribution (November, 1991 - January, 1992)

管内地震活動図

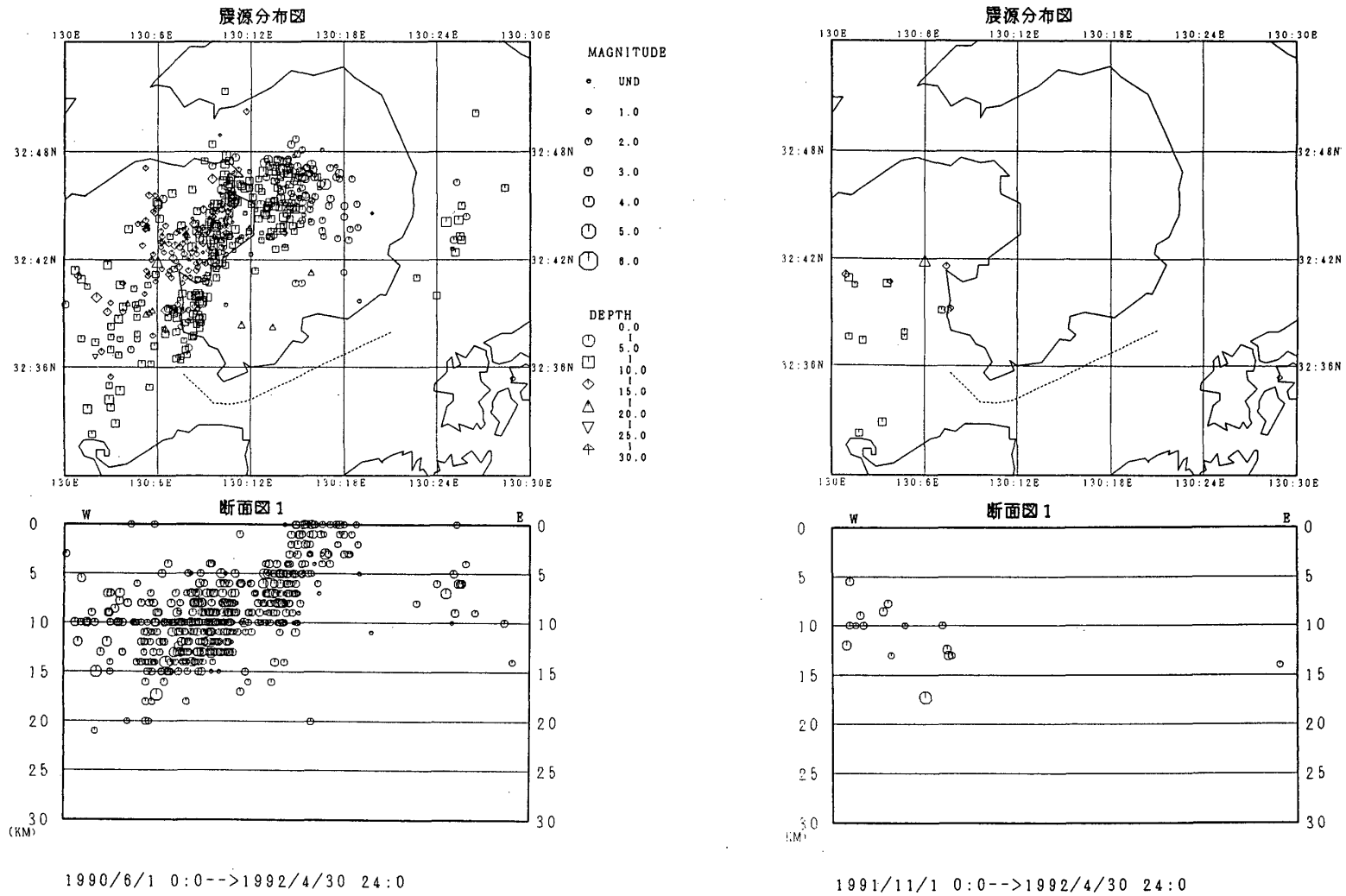
(1992/2/1 0:0-->1992/4/30 24:0)

福岡管区気象台



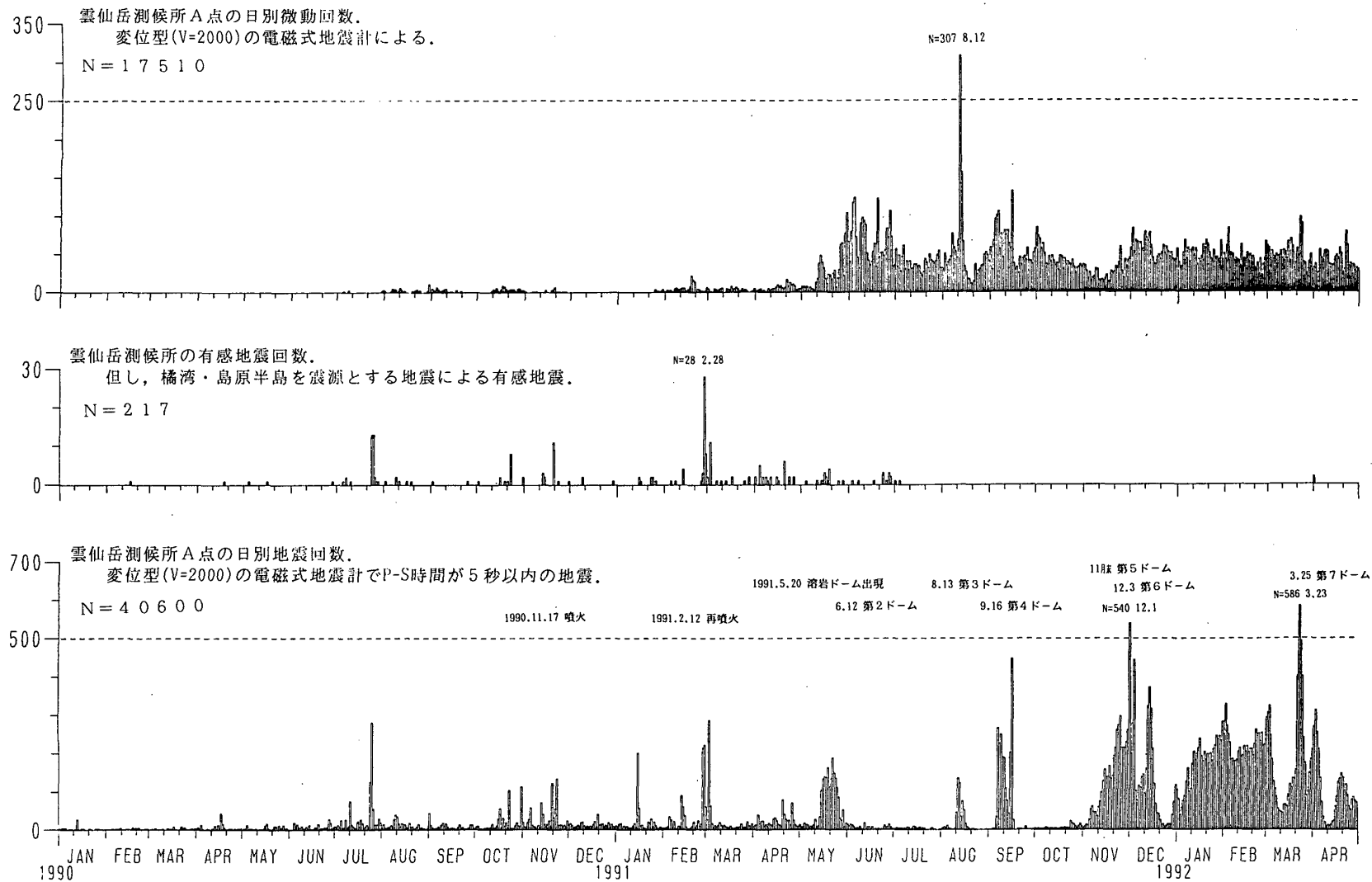
第3図 震央分布図 (1992年2月~1992年4月)

Fig. 3 Epicentral distribution (February, 1992 - April, 1992)



第4図 島原半島付近の震央分布図，東西断面図
(1990年6月～1992年4月) (1991年11月～1992年4月)

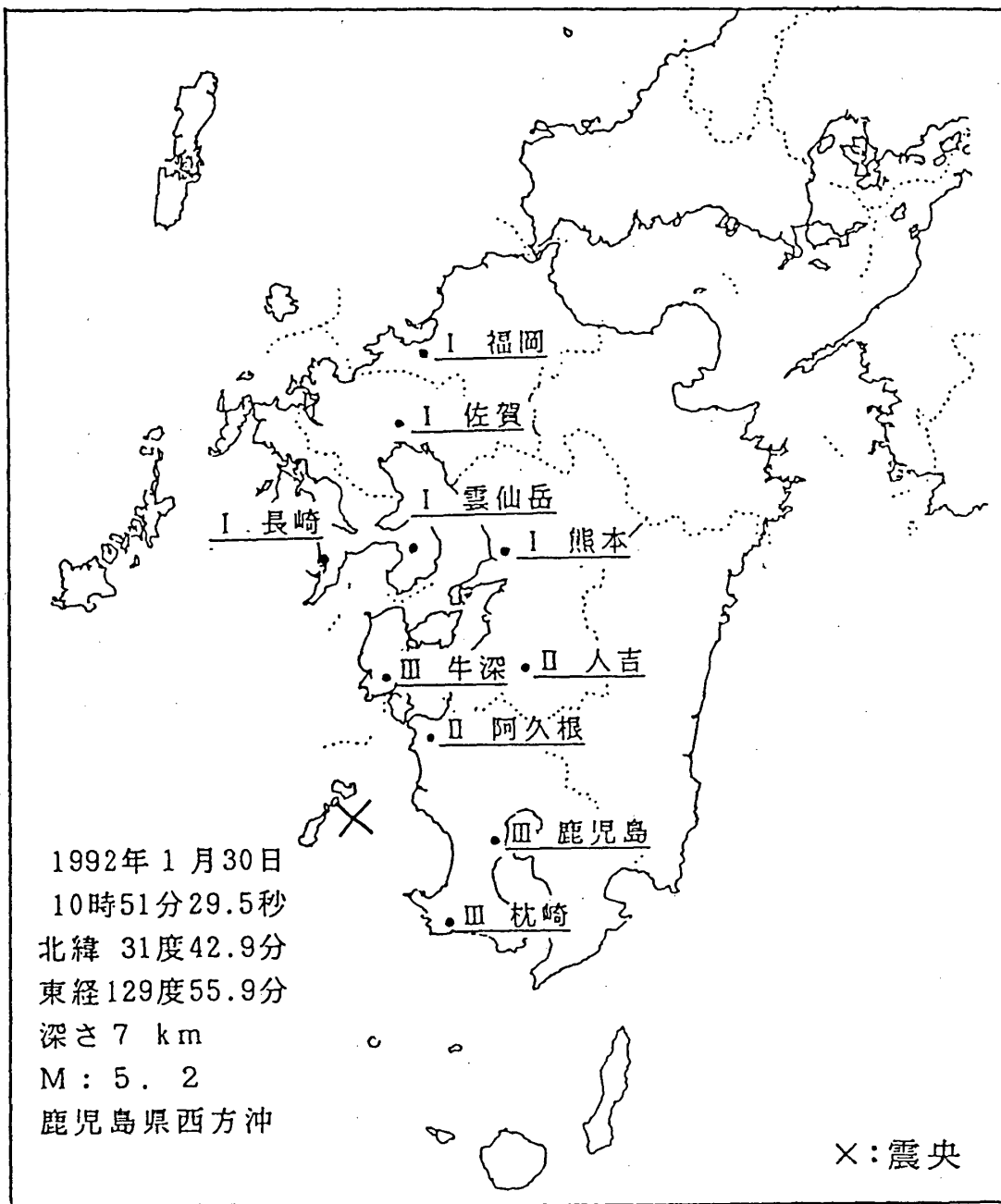
Fig. 4 Epicentral distribution and vertical section along the E-W direction in and around Simabara peninsula region.
(June, 1990 – April, 1992) & (November, 1991 – April, 1992).



第5図 雲仙岳測候所における日別地震回数，有感地震回数，微動回数（1990年1月～1992年4月）

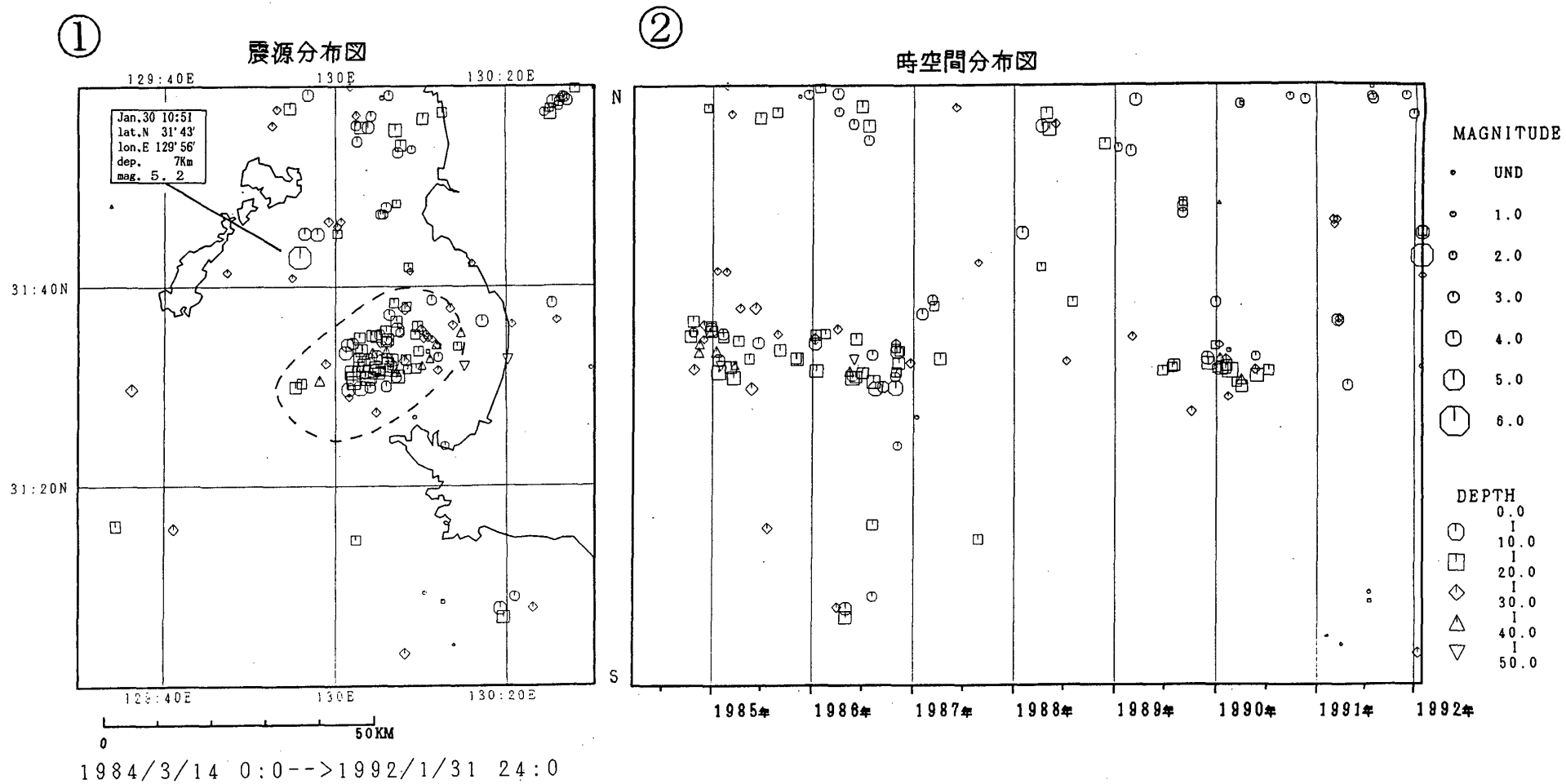
A74型直視電磁式地震計（変位型2000倍）の記録でP-Sが5秒以内

Fig. 5 Daily numbers of earthquakes (S-P time \leq 5 sec), felt earthquakes and volcanic tremors observed by A74 type seismograph, magnification: 2000, at Unzendake weather station (January, 1990 – April, 1992).



第6図 1992年1月30日10時51分 (M:5.2) : 鹿児島県西方沖の地震の震度分布

Fig. 6 Distribution of seismic intensities for the earthquake in the region west off Kagoshima pref. (January 30, 1992).



第7図 鹿児島県西方沖の地震活動（1984年3月14日～1992年1月31日）

①：震央分布 ②：時空間分布

Fig. 7 Seismic activity in the region west off Kagoshima pref. (March 14, 1984 – January 31, 1992).
① : Epicentral distribution, ② : Space-time plot.